

令和 4 年 4 月 15 日

(※受付番号)

教 育 長 様

研究コース
A グループ研究A
校園コード（代表者校園の市費コード）
681512

代表者	校園名 :	大阪市立大宮小学校
	校園長名 :	丹羽 和江
	電話 :	6953-4001
	事務職員名 :	根津 岳
申請者	校園名 :	大阪市立大宮小学校
	職名・名前 :	主務教諭 菱垣 裕子
	電話 :	6953-4001

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	自分の考えを筋道立て表現し、課題解決する子どもを育てる ～生きて働く算数科の日常化をめざして～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>算数化における基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力を育む。算数を主体的に生活や学習に生かそうとする力を育成するための指導内容や方法を明らかにする。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>本校は、昨年度までの5年間で、国語科を中心に「論理的思考力を高める指導法の工夫」をテーマに、読むことと書くことを関連付けた指導法を研究してきた。教科横断的な学びを意識してカリキュラム編成も行ってきた。その結果、学力経年調査などから、全学年、全教科で市平均を上回るなど、一定の成果は見られるようになった。</p> <p>しかし、アンケート等によると、児童は、「教科の学習は大事」と感じてはいるが、「実際のどんな場面で感じたことがあるか」を具体的に挙げられる割合は少ない。教科の学習と日常生活の乖離が見られる。とりわけ、算数科においてその傾向は、顕著である。したがって課題解決・追究のエネルギーも大きくないといった実態がある。正解が出たら、テストの点数が良ければそれで満足している。</p> <p>課題に対して、論理的に考え方を明しようとする力・姿勢は、大変重要である。これからの複雑で多様化する社会で、自分の力で、あるいは協働し合って課題を解決し、よりよく生きる力を育むことが、重要である。</p> <p>そこで、以下の点に沿って本年度は、研究を進める。</p> <p>(1) 主体的な課題発見・課題解決への意欲を高める工夫</p> <p>①学習過程の「出会う」「気づく」段階を工夫し、解決しようという意欲を高める。 ②自立解決から協働的な学びの場の工夫（発表ツール・タブレット・ホワイトボード） ③筋道立てた表現の力を付けるための言語活動の場の設定</p> <p>(2) 年間指導計画をもとに学習の系統を教材分析し、習得した力を活用する力を付ける工夫</p> <p>①レディネステスト等による実態把握・分析 ②既習内容を活用できるようにするための指導の工夫</p> <p>(3) 個別最適化の学びの工夫</p> <p>①I C T等を活用し、個に応じた指導の工夫</p>			

研究コース

A グループ研究A

代表校校園コード

681512

代表校園

大阪市立大宮小学校

校園長名

丹羽 和江

		<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>教材研究会 先行研究・実践を収集し、教員間で実践を交流して指導法の見直し、工夫を図る。</p> <p>4月 課題分析 研究内容の検討・研究計画立案、先行研究、実践事例の収集 研修プログラム作成</p> <p>5月 校内自主研修開催 (全国学力学習状況調査問題) 児童・教員への事前アンケート作成・実施・分析 教材研究会</p> <p>6月 算数科の学習内容に関する資料等の整備 教材研究会 研究授業(4年)</p> <p>7月 研修 教材研究会 研究授業(6年) 研究協議会 (1学期の研究成果・課題について協議し改善方法検討)</p> <p>8月 校内外研究・研修会への参加、内容の伝達研修</p> <p>9月 研究・検証授業の実施 (年、特別支援学級) 教材研究会</p> <p>10月 日々の授業における課題発見・解決法・表現活動の検証 研究協議会・中間検証(児童・教員アンケート実施・分析)</p> <p>教材研究会 研究授業(2年)</p> <p>11月 教材研究会 研究授業(3年) 研究発表会 (参加者アンケート)</p> <p>12月 学力経年調査における学力向上検証</p> <p>1月 学力向上についての最終検証 (学力経年調査結果、アンケート等)</p> <p>2月 児童・教員への事後アンケート実施・事前アンケートとの比較 学力向上 読書習慣定着に向けた指導・支援・働きかけの検証と研究まとめ</p> <p>主体的対話的で深い学びのある、質の高い授業をめざし、活用する力を高める。</p>
5	活動計画	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p>○児童の学力向上 ・算数科学習指導や取組の工夫、授業改善を行うことで、児童の論理的思考、情報活用・発信力（表現力）が向上する。</p> <p>『検証方法』 児童のアンケート調査で「算数科の学習は楽しい」「よくわかる」「課題を解決したり、課題解決のプロセスで考えたことをまとめたり発表したりするのは楽しい」と答える割合を年度当初より5%増やす。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p>○指導力の向上 本年度の全国学力・学習状況調査や昨年度の大阪市学力経年調査問題を分析し、いま求められている力を全教員で共有することで、授業改善ができ、教員の指導力が向上する。</p> <p>『検証方法』 教員のアンケート調査で、「算数科の指導のポイントが分かり、主体的・対話的で深い学びのある授業ができるつつある」の項目で、肯定的な回答を年度当初より5%増やす。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p>○校内研究の活性化 教材研究、指導法の工夫、指導案作り、研究授業・研究討議会等の過程で、本校教員の指導力向上が図られるとともに、協業体制が強くなる。</p> <p>『検証方法』 教員へのアンケート調査で「算数科の研究で、授業改善の方法がわかり、自信が付いた」と答える教員の割合を、年度当初より高くする。</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	

研究コース

A グループ研究A

代表校校園コード

681512

代表校園

大阪市立大宮小学校

校園長名

丹羽 和江

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果4】 ○保護者・地域の意識改革 教職員の取組や児童の成長から、学校への信頼が高まる。</p> <p>『検証方法』 保護者アンケートで「学校は分かる授業に努めている」「学校は子どもの力を高める努力をしている」の項目で、肯定的に答える割合を年度当初より増加させる。</p> <p>【見込まれる成果5】</p> <p>『検証方法』</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和5年2月24日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="401 979 965 1046"><tr><td>日程</td><td>令和 4 年 10 月 28 日</td><td>場所</td><td>大阪市立大宮小学校</td></tr></table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>研究紀要作成、近隣小中学校・幼稚園・保育所との合同研修会における発表、「学校だより」「学年だより」等による保護者・地域への発信</p>	日程	令和 4 年 10 月 28 日	場所	大阪市立大宮小学校
日程	令和 4 年 10 月 28 日	場所	大阪市立大宮小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>本校は、過去5年間、国語科を中心に研究を進めてきた。若手教員が年々増え、基礎基本の指導のあり方からスタートし、授業力をあげるための種々の取組みも行い、教育活動の活性化を図っている。その結果、校内授業研究は大変活発になっており、コロナ禍にあっても、「授業は一番大事」との思いから、全員が一人一授業の公開を行い、実践を積み重ねた。まずは、児童の実態把握をもとに日々授業改善しようとする教員の意識改革はめざましい。</p> <p>「授業が変われば児童が変わる。児童が変われば、保護者の意識も変わる。」を合い言葉に、本年度も学力向上を目指し、本実践研究に一丸となって取り組む。児童の成長を実感し、教員自身の学びの深まり・喜びへと繋がるものと確信する。</p> <p>本年度、新任教員が3名加わり、新たな気持ちで本研究に取り組み、学校改革をさらに進め、学校活性化をめざす。</p>				